

各関係機関長 様

熊本県病虫害防除所長

病虫害発生予察特殊報について（送付）
このことについて、発生予察特殊報第1号を発表しましたので送付します。

特殊報

令和6年度（2024年度）発生予察特殊報第1号
令和7年（2025年）3月28日
熊本県病虫害防除所長

- 病虫害名 チュウゴクアミガサハゴロモ
- 学名 *Ricania shantungensis* (Chou & Lu, 1977)
- 発生作物 カンキツ（ミカン科）等
- 発生確認の経過
令和6年（2024年）9月に、一部のカンキツ園で在来のアミガサハゴロモとやや形態の異なるハゴロモ類が発生し、産卵された枝の伸長抑制（写真1）や、すす病による果実の被害（写真2）が見られた。カンキツに寄生していた成虫を農林水産省門司植物防疫所に送付し、同定を依頼した結果、県内未確認のチュウゴクアミガサハゴロモ（写真3）であることが判明した。
- 国内の発生状況
本種は中国原産で、国外では、2010年以降に韓国、トルコ、フランス、ドイツ、イタリア、ロシア、オランダへの侵入が確認されている。国内では、平成29年（2017年）に大阪府で初めて発生が確認されて以来、関東以西から九州までの各地で発生が確認されており、農作物への被害については、神奈川県、埼玉県、福岡県、山梨県、東京都、群馬県から特殊報が発表されている。本県では、これまでにチャやカンキツ、カキ、花木類で、当害虫と思われる目撃情報が寄せられており、数年前から発生していた疑いがあるが、現在のところ被害が確認されたのはカンキツのみである。
- 形態及び生態等の特徴
(1) 形態
成虫の体長は7～10mm程度、前翅長は約14mmで、茶褐色～鉄さび色である。前翅前縁中央部に三角形～半円形の白斑があるが、白斑の形状には個体差がある。幼虫は白色で、腹部から白い糸状の毛束が広がっている。枝内に産卵された部分の表面は毛状の白色蠟物質で覆われている（写真4）。

(2) 生態

本種は極めて広食性であり、多くの木本植物やキク科の草本植物に寄生する。果樹では、リンゴ、モモ、カキ、カンキツ、クリ、ブルーベリー等での発生が報告されている。成虫、幼虫とも新梢を吸汁し、寄主の枝に産卵するが、年間発生世代数など生態は不明な点が多い。

(3) 被害

集団で樹木の枝を吸汁し、その排泄物にかびが生えすす病を誘発するため、果樹では果実の外観品質を損ねる。また、成虫は直径10mm以下の細い枝を割いて産卵するため、枝が損傷し、伸長抑制や枯死により樹木を衰弱させる。

7 防除対策

(1) 本種に対して登録のある薬剤は無いため、産卵された枝の除去に努めるなど、個体数を減らす耕種的防除を行う。



写真1 カンキツの被害枝



写真2 カンキツの被害果(すす病)
果実表面の凹凸は品種特性によるもので、
本虫の被害では無い。



写真3 ふうごうがみがかほぐもとの成虫



写真4 カンキツ枝の産卵痕

熊本県病害虫防除所
(熊本県農業研究センター 生産環境研究所内)
担当：清永
TEL 096-248-6490 FAX 096-248-6493